

第 128 回

サイエンス・カフェ札幌

想像力をめぐる対話

アートと科学哲学からの

写真《datum》平川 紀道、2017

ゲスト

ローマン・フリッグ

ロンドン経済大学

平川 紀道

アーティスト

コメンテーター 松王 政浩

北海道大学 理学研究院 教授

聞き手 朴 炫貞

北海道大学 CoSTEP 特任講師

2023

2.24 金

18:00-20:00

札幌市図書・情報館

札幌市民交流プラザ内 札幌市図書・情報館 1 階
札幌市中央区北 1 条西 1 丁目

主催

北海道大学 CoSTEP、札幌市図書・情報館

協力

札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市

科学哲学者。研究対象は、一般科学哲学と物理学の哲学、科学的表象、モデリング、統計力学、ランダム性、カオス、気候変動、量子力学、複雑性、確率、科学的实在論、コンピューターシミュレーション、還元主義、検証に関する論文を発表しながら芸術と科学の関係について探求している。現在の研究は、科学モデルと理論の性質、統計力学の基礎、および不確実性の下での意思決定に焦点を置いている。

平川 紀道

1982年生まれ。もともと原始的なテクノロジーとして計算に注目し、コンピュータプログラミングによる数理的処理そのものや、その結果を用いたインスタレーションを中心に、2005年から作品を発表。2016年、カブリ数物連携宇宙研究機構のレジデンスで作品「datum」シリーズの制作に着手、豊田市美術館、札幌国際芸術祭イベントなどで発表したのち、17年、チリの標高約5000mに位置するアルマ望遠鏡のレジデンスを経て、六本木クロッシング2019などで最新バージョンを発表。また池田亮司、三上晴子らの作品制作への参加、ARTSATプロジェクトのアーティストックディレクション等も行う。2019年より札幌を拠点。

松王 政浩

1964年大阪府に生まれる。1996年京都大学大学院文学研究科博士課程修了。静岡大学情報学部助教授などを経て、現職は北海道大学大学院理学研究院教授、博士(文学)。専門は科学哲学。主な著書に『科学哲学からのメッセージ：因果・实在・価値をめぐる科学との接点』（2020年、森北出版）、主な訳書にエリオット・ソーパー『科学と証拠—統計の哲学入門—』（2012年、名古屋大学出版会）、マイケル・ワイズバーク『科学とモデル—シミュレーションの哲学入門—』（2017年、名古屋大学出版会）がある。

想像力とは、現実には生じていない物事を思い浮かべる能力です。日常の経験では出会うことのない豊かな世界を創造するアートだけではなく、私たちの生きる世界の真のあり方に迫る科学も、この想像力を通じた営みです。今回のカフェでは、アートと科学哲学という分野で独自の視点で活動しているゲストと一緒に、アートと科学における想像力の関係性について話し合います。

アーティストの平川 紀道さんは、もっとも原始的なテクノロジーとして計算に注目し、コンピュータプログラミングによる数理的処理そのものや、その結果を用いたインスタレーションを中心に作品を制作しています。モエレ沼公園で展示した《datum》をはじめ、作品をご紹介いただきながら、アート作品の創造や鑑賞における想像力について考えていきます。もう一人のゲスト、ローマン・フリッグ (Roman Frigg) さんは、フィクション理論を唱える科学哲学者です。想像力は、科学的探究にとって不可欠であるだけではなく、科学という営みの中核にあるとフリッグさんは主張します。計算や実験よりも、想像力を用いたモデルの構築こそが、科学にとって本質的であるという主張は、近年、科学哲学の分野で注目されているフリッグさんに独自の理論です。

また、フリッグさんと共同研究している松王政浩（北海道大学理学研究院 教授）さんはコメンテーターとして登場します。平川さんとフリッグさんの視点について、想像力から作られるフィクションとリアルの見方について、コメントをいただきます。それぞれの視点から見えてくる想像力の働き。その想像力が創り出す物語や、それを通して見る現実。今回のカフェを通して、想像力について、それぞれの視点から想像してみましょう。

本イベントは、科研費基盤研究 (B)20H01736「統計学的視点を加味した科学哲学による「科学的推論」教育プログラムの構築」（研究代表者：松王政浩）の助成を受けています。

